

人生聞いて寄り添う

傾聴ライター講座 学び語り合う受講者

認知症の方に話を聞き、人生を表現する「傾聴ライター」を養成する講座が、9月からささえーる薬王寺で開かれています。10月23日、その4回目の講座を覗かせていただきました。

傾聴ライターは、練馬区の「NPO法人むすび」のケアマネジャー・荒川直美さんが提案し始めた手法です。認知症のお年寄りの人生のエピソードを聞き、写真などと一緒に短い文章で「おもいで菜」にします。

この日の出席は約20人。女性が8割で、20代から80代まで幅広い方が取り組んでいました。



まずノンフィクションライターの久田恵さん(71) =写真=が仕事のインタビューやボランティアでの豊富な「傾聴」経験を講演。「話を聞く人、聞かれる人、互いにいろんな影響を与え合い、大きな記憶を掘り起こしていく。語



1回目の傾聴体験を語り合う受講者のみなさん＝10月23日

る人はよく考え、聞く人も知的好奇心が耕され成長する」と傾聴ライターの大切さを強調しました。

後半は、グループに分かれて1回目の傾聴を行った参加者が発表し、意見交換しました。

97歳の女性を傾聴した牧野祐子さんは、最初相手に拒否されたと言います。挨拶だけでもと思い「お召し物が素敵ですね」と声をかけると一気に打ち解け、話してくれたのだそう。

「話は全て生まれ故郷に戻ってしまいますが、神社やお祭りはネットで調べたら本当にあり、次は印刷して持参します」と話して

いました。

山本かおりさんは、認知症が進み記憶があまりない86歳の女性を担当。「聞き出すことが難しく、思い出す時に眉間にシワが寄り、どこまで質問するべきなのか迷いました」と実体験ならではの悩みも話していました。

講座を覗いて、傾聴ライターは他では出会えないであろう人の人生を深くまで聞くという、珍しい経験ができると感じました。

自分の経験していない生き方を学ぶことはとても価値のあることだと思うので、私も機会があれば参加してみたいです。